

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Series 3 Number 1

March, 1994

第117回日本獣医学会

解剖分科会 46演題

シンポジウム 5題

日本都市センターで開催される今春の獣医学会（4月1日、4日）での解剖分科会のかかわりは、2日の午前中に17題、午後13題3日の午前中16題の合計46演題である。この他に下記のように分科会のシンポジウム「我が国の解剖学教育の現状と課題」の第3回として「標本作製法と研究方法」を企画した。これは他の分科会のように4月1日に行うことを止めて、2日の午後の一般演題の前に一時間半をとって行うことにした。演者は主として医学部の解剖教室などで実際に標本作製に携っている方々をお願いした。形態学の進歩は方法の進歩に負うところが大きいのである、会員各位がこのシンポジウムで少しでも技術的なヒントを得られることを期待したい。また次の十和田での学会でも分科会シンポジウムを連続して行うのであれば、どのようなテーマにすればよいかなどの御意見をぜひ寄せていただきたい。例え

ばカリキュラムの問題（シラバスについての議論など）、免疫電顕について、国家試験の解剖学の問題の検討、発生学や遺伝学をどう扱うか、などのトピックスはどうあろうか。

4月3日の午前一般演題終了後に解剖分科会集会所が予定されている。分科会の名称について再び会員の意見を聞くこと、分科会の会長、副会長、幹事の選挙のこと、会計報告、その他が予定議題。御参加をお願いします。

更に昼食後に学会賞受賞者講演が行われるが、今回の受賞者のうち一名は本曾康郎解剖分科会会員であるので引き続き御来聴下さい。演題は「妊娠子宮の種普遍性、特に顆粒リンパ球様細胞に関する機能形態学的研究」である。

第3回解剖分科会

研究奨励賞決定

おめでと

☆宮田裕人君（酪農大）

演題「ブタサヤ組織構成細胞の細胞化学的性状」

☆渡辺孝孝君（麻布大）

演題「ラット胎子静脈管のインドメタシンに対する感受性について」

この奨励賞は分科会学会活動の活性化を計るために、そのままでの論文投稿費補助金を当てる。学会の発表を対象に分科会評議員の先生方に投票していただいた受賞者をきめることにしたものである。しかし学会自体がこのように新しい学会賞を創設したことは、分科会に対す

解剖学分科会シンポジウム

4月2日(土) 14:30~16:00 都市センターホール第2会場

我が国の解剖学教育の現状と課題

(3) 標本作製法と研究方法

座長: 牧田 登之 (山口大)

- S1-1. シリコーン含浸標本作製装置による肉眼標本の作製
及川 正明 (JRA総研)
- S1-2. SEM試料作製法の実際とその問題点
浜崎 正雄 (久留米大・医)
- S1-3. 光顕用プラスチック包埋切片作製法
安澄 文興 (琉球大・医)
- S1-4. パウインと超音波洗浄機を用いた骨格標本の作製について
権田 達夫, 安食 隆 (鳥羽医大)
- S1-5. 形態計測法の理論と電算機処理計測法の実際
渡辺 淳, 金村 泰輔 (関西医大)



日本解剖学百周年記念事業について

周知のように、明年は日本解剖学会百周年に当るので記念行事が、種々計画されている。当分科会に関連のあるものを念の為に紹介しておきたい。

☆ミニシンポジウム

4月1日、4月3日

2時間程度

(A)「我国の野生哺乳動物の解剖」

オルガナイザー 林 良博

(東京大)

(B)解剖学教育—現状と展望

オルガナイザー 平野 寛

(杏林大)

なお(A)は第25回国際獣医学会(WVA) (明年9月3日、9日)におけるWVAのシンポジウムの準備の意味も兼ねて企画されたものである。WVAではタイトルを「Anatomy of Wildlife」にする予定で目下交渉中。

☆百年史「日本解剖学百年のあゆみ」に家畜解剖学の百年をエッセイ風に寄稿

☆教室史執筆

日本解剖学会加盟の各教室が2頁分(4000字以内)の教室史を寄稿する。原稿ノ切は平成6年5月31日。問い合わせは京都府立



医大第二解剖学教室、井端泰彦教授(電075-251-5303 またはFAX251-5304) この機会に獣医解剖学教室で未加入のところは加盟しておくことをお勧めしたい。

Atlas of Canine Anatomy

オハイオ州立大学解剖学教授のアンダーソン夫妻が上記の犬の解剖図譜を発表された。二二三〇頁の大著でカラー図48を含む一六〇〇図をこえる力作である。Lea & Febiger社によれば日本の出版社からほん訳権を買う申出があるとのこと。価格は二二五米ドル。因みに本書を四七九枚のスライドにしてセプトで販売しているがその価格は995米ドルである。



獣医学会理事候補者選挙開票結果

日本獣医学会の改組計画の一環として四専門部会が創設され先頃各専門部会の評議員が選出された(別表)がこれを被選挙人名簿として理事候補者の選挙が堀内貞治選挙管理委員長のもとで行われ、2月24日の理事会で開票結果が発表された。4月3日の理事会で決定されるが、各専門部会の上位4名ずつ(得票同数の場合は細則により年長者が上位とされた)が理事予定者である。

A 基礎獣医学系専門部会

- 1 牧田 登之
- 2 唐 木 英 明
- 3 林 良 博
- 4 江 口 保 暢

B 病態獣医学系専門部会

- 1 板 倉 智 敏
- 2 藤 原 公 策
- 3 後 藤 直 彰
- 4 吉 川 克

C 予防獣医学系専門部会

- 1 光 岡 知 足
- 2 見 上 魁
- 3 小 沼 操
- 4 小 川 益 男

D 臨床獣医学系専門部会

- 1 長谷川 篤彦
- 2 本 好 茂
- 3 高 橋 貢
- 4 金 川 弘 司

(敬称略)

選挙の発表によると、投票用紙は4032通発送され、1851通の投票があったが、そのうち1536通を有効とされた。記入すべき5名が1名以上欠けたものは全部を無効としたことである。また選挙は次期監事として倉益茂夫、土井邦雄両氏を、また同補欠の一位に根路銘昭氏と、次に明石博臣氏を推薦することを決定した。

解剖分科会としては、三名の理事を出すことになった。事前運動があったという批判が流されているようであるが、そういう批判は別として、会員各位が積極的に参加していただいたこと、他の分科会の方々の支持もあったことを十分に評価して今後の運営に反映されることを期待したい。

評議員名簿

基礎獣医学系専門部会

明石博臣、赤堀文昭、浅倉繁春、阿部光雄、有嶋和義、伊藤勝昭、糸原重美、乾純夫、今道友則、上原正人、浦川紀元、江口保暢、江崎孝三郎、大賀晴、大塚潤一、大橋秀法、岡野真臣、小川智也、兼松重任、鹿野

野 野 野、加納康彦、唐木英明、菅野富夫、熊谷進、齊藤昌之、佐々木文彦、佐々木康之、笹本修司、佐藤英明、澤崎坦、塩田邦郎、柴田浩、菅野茂、菅野司、鈴木勝士、鈴木義孝、芹川忠夫、高橋迪雄、谷口和之、種池哲朗、醍醐正之、月瀬東、徳力幹彦、豊田裕、内貴正治、中

西中川 駿、西村昌敏、根路銘国昭、萩原敏且、橋本博、林良博、速水正憲、原田悦守、平井莞二、藤田正一、牧田登之、増田裕、松田治男、松山茂、萬場光一、村上隆之、森井勉、矢ヶ崎修、山田純三、山野秀二、山内一也、吉川泰弘、和栗秀一

病態獣医学系専門部会

東量三、飯田晶敏、石田卓夫、石野清之、板倉智敏、井上勇、上田雄幹、梅村孝司、大島寛一、大島 慧、大林正士、岡田幸助、岡庭 梓、小山田隆、兼子樹広、川合是彰、桐生啓治、小久江栄一、奥水 馨、小谷毅夫、後藤直彰、斎藤京子、三枝純三、坂本 司、佐久間貞重、佐藤 博、清水 孜、白井 弥、杉山公宏、鈴木直

義、高橋令治、立山 晋、谷山弘行、土井邦雄、中川迪夫、中山裕之、波岡茂郎、奈良間功、成田 實、二本木夫、布谷鉄夫、野村靖夫、畑井喜司雄、林 俊春、藤原公策、堀内貞治、真板敬三、前島一淑、前田 俊、松井高峯、松沼尚史、三森国敏、宮崎宏彰、森口良三、山極順三、吉川 克、吉野知男

予防獣医学系専門部会
畦地速見、伊佐山康郎、石崎良太郎、伊藤進午、伊藤蓮太郎、稲葉右二、井上 武、今井正夫、上田 進、植村 興、江藤正信、扇元敬司、大槻公一、小川益男、小澤義博、小沼 操、小野寺 節、貝塚一郎、勝部泰次、金内長司、鹿江雅光、神谷正男、河村 斉、金城俊夫、国

臨床獣医学系専門部会

安主税、倉坂茂實、光崎研一、甲野雄次、児玉義勝、近藤房生、後藤 仁、阪口玄二、佐藤静夫、鮫島都郷、品川森一、清水高正、清水悠紀臣、白坂昭治、杉村崇明、関 令一、高橋英司、田淵 清、椿 志郎、坪倉 操、寺門誠致、中井正久、中島英男、長尾壮七、野村吉利、橋本和典、橋本信夫、馬場 威、平井克哉、平

棟孝志、藤崎幸藏、古内進、古川義寛、松坂尚典、丸山 務、見上 彪、光岡知足、湊一、南 哲郎、森田千春、森田盛大、山岸敦郎、山田進二、湯浅 真、袖本弘之、吉田 勉

青木 修、安部勝人、荒川 晴、板底外茂雄、井上和幸、上田八尋、太田亨二、大塚宏光、大友勘十郎、大西堂文、小笠 晃、小笠原成郎、小野 憲一郎、籠田勝基、柏崎 守、金川弘司、金田義宏、加茂前秀夫、川村清市、小谷忠生、小林好作、佐々木伸雄、佐々木栄英、佐藤邦忠、佐藤 敬、更科孝夫、島田保

昭、清水亮佑、菅 徹行、菅沼野吉光、前出吉光、牧村 進、常徳、鈴木立雄、鈴木達行、平 詔亨、高橋勝昭、高橋清志、高橋 貢、武石昌敬、竹内啓、百目鬼郁男、内藤善久、中尾敏彦、中原達夫、中間實徳、山根義久、吉田仁夫、尾山雅美、橋本 晃、長谷川篤彦、浜名克己、林 隆敏、日原宏、広瀬恒夫、藤水 徹、星

「獣医発生学用語」発刊される

前号で予告した通り、NOMINA EMBRYOLOGICA VETERINARIA JAPONICA が去る十二月二〇日に発刊された。一三六頁の小冊子であるが、すでに海外の各方面に寄贈して反響を呼んでいる。分科会会員には前回の「獣医組織学用語」の時と同様に、4月1日、4日の学会場で配布する(無料)。引換券に所属と氏名をかいて引換えていただきたい。学会に出て来られなかった会員の分もできれば持って帰っていただきたい。郵送料が重むので郵送は取止めるので。この機会に江口保暢委員長をはじめ、谷口和之、橋本善

引換券

所 属
氏 名

豚はイノシシから、 犬はオオカミからなのかな？

バラグアイ(アスンシオン)の土産ばなし

J A I C A の専門職員でバラグアイに行っていた遠藤健治氏(現在 M I C 社)の紹介と、柏原孝夫先生の御協力を得て、昨秋バラグアイの首都アスンシオン郊外にあるアスンシオン大学獣医学部と、農業省人工授精センターの共同研究ということ



現地ではアラニ族の人々がクレブロー(ロバブタの意)と呼ぶ単蹄豚の解剖をすることができた。学会の演題としても紹介するが、現地にはその他にも土着の豚がいろいろ居るよう

で、そのどれもがいわゆる野豚ではないのが興味深い。豚はイノシシからという通念に例外もあるということかもしれぬ(写真)。
なお面白いことには、バラグアイの奥地にゆけば、穴を掘って住んでいる山犬が昔からいると現地の人々が言っており、骨格標本をみた限りにおいてはこれはオオカミのものではなかった。
Cachou de mulo といわれているこのヤマイヌがオオカミからイヌになったという概念の中にどういがかかわりをするようになるのか。おはなしだけのお土産です。(山口大 牧田)

(今後の獣医学会開催予定地)

- ・次回獣医学会 (今年)
北里大学: (十月) 9月5~7日
- ・次々々々獣医学会 (明年)
東京大学: (明年)
- ・次々々々獣医学会 (明年)
鳥取大学: (明年)
- ・1996年春
日生研: (麻布大学)

定評！解剖学シリーズ	猫の解剖学	猫の解剖図説	組織と器管・走査電顕図譜	兎の解剖図譜	ラットの解剖図譜	家畜発生学	マウスの発生アトラス	獣医組織学	株式会社 学窓社
定価 3,000円 送料 200円	定価 3,300円 送料 200円	定価 1,300円 送料 200円	定価 3,100円 送料 200円	定価 2,400円 送料 200円	定価 3,300円 送料 200円	定価 1,900円 送料 200円	定価 1,300円 送料 200円	定価 2,000円 送料 200円	〒162-8528 東京都港区赤坂2-16-28 TEL: 03-3581-8701 FAX: 03-3581-8704

人物往来

御退官になる会員

○山下 忠 幸 教授
(帯広畜産大学)

○杉 村 誠 教授
(北海道大学)

○鈴木 孝 司 教授
(東京農工大学)

御昇任になる会員

(A) 助教・教授

○西中川 駿

(鹿児島大学)

○山 田 純 三

(帯広畜産大学)

(B) 助手・助教

○松 本 光 春

(鹿児島大学)

(C) 助手・講師

○本 曾 康 郎

(大阪府立大)

編集後記

このニューズレターも学会の前に発行することが定着してどうにか5号目になった。その学会で解剖分科会が「我国の解剖学教育の現状と課題」というシンポジウムをはじめた。今回は医学部からのシンポジストで編成してみた。ただ学会の構成が昨年より大きく変えられはじめたので新しい様式に落着くまでに時間がかかりそうである。差当たり、専門部会での解剖分科会の在り方から考える必要がある。名称をこのままにしておくのか、研究会がいいのか、病理学分科会が検討されているように「学会」ということにするのか。専門部会創設の意図が何となく判りにくいままに理事の選挙が行われた。所属部会なしという会員も少くなく、またうっかり他の部会にはいつてしまった方も多という。早急にあらためる必要がある。いずれにしても獣医学会の運営は一般会員にとって判りにくいという声をきくことが多い。解剖分科会もそうならないだろうか。
自戒をこめ分科会の運営の若返りを早急にすすめたい。

(編集子)